

昭和39年度 和歌山県文化賞

もり けい ぞう
森 慶 三

住 所：和歌山県和歌山市

出 身 地：和歌山県東牟婁郡下里町

生 年：明治21年

■ 職業

地方文化研究(郷土史、史跡)

◎業績及び経歴

明治42年3月、和歌山師範学校を抜群の成績で卒業するや、ただちにまねかれて母校師範学校附属小学校の訓導に就任し、爾来、大正13年3月まで、串本小学校長、田辺小学校長として活躍する。この間県教育委員会から視學員を委嘱され、第1回視學員として満洲、朝鮮地方にも派遣されている。

大正13年7月県視学を拝命、昭和2年日高等女学校々長に就任し、県下初等教育中等教育界のため多大の功績を収めた。その後、県庁に入り、秘書課長、人事委員長等を歴任し、県一般行政に残した功績も大きい。

こうした教育者、行政官としての職務の外に県下の文化財等に造詣深く、大正14年5月和歌山県史跡名勝天然記念物調査委員を委嘱されて以来、昭和40年死去するまで40年間、県文化財専門審議員、県立美術館専門審議員、県政史編纂委員として、県下の史跡名勝文化財等の保存、各種資料の集しゅう等社会科学の研究に精魂を傾注し、本県文化の向上に寄与した功績は甚大である。

昭和39年11月著作の医聖華岡青洲伝はその結晶の一つである。